

第4回 同窓会在り方検討委員会の記録

日時 令和元年9月21日(土) 10:00
場所 北海道教育大学岩見沢校 第1会議室

検討委員

委員長 石塚 信彦(三役)
副委員長 大石 良明(OB) 欠 理事長 小関 文雄
委員 小松 靖一(札幌支部事務局次長)
安保 幸司(石狩支部事務局長)
畠山 和彦(空知支部 空知青陵会会長)
佐藤 直樹(公務員・民間部会事務局長) 欠
竹下 真也(公務員・民間部会会計)
米本 智(三役)

進行: 小関理事長

1 開 会

2 委員長挨拶

- ・今回新しく就任した委員もいますが、これまで3回本員会を開催し、中間答申を行いました。今回が4回目となりますが、教員中心の同窓会から民間へ就職する卒業生が増える中、どのように同窓会をシフトしていくかが大きな課題です。今年の研究大会では具体的な方策などについて話し合われましたので、本日はそれを基により具体的な方策について検討していければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 議 事(石塚委員長)

(1) 経過報告

- ・4/21(日)第3回「同窓会在り方検討委員会」
 - ・中間報告内容の検討, 協議
 - ・今後の進め方の確認
- ・5/18(土)北海道教育大学青陵会総会
 - ・「同窓会在り方検討委員会」中間報告(石塚委員長)
- ・8/10(土)北海道教育大学青陵会研究大会
 - ◎「持続可能な同窓会の在り方を求めて」
 - ・「同窓会在り方検討委員会」中間報告の説明(石塚委員長)
 - ・シンポジウム, バズセッション

(2) 道青陵研究大会シンポジウムの報告

(3) 今後の検討委員会の進め方

(4) その他

○道青陵研究大会シンポジウムの報告

と き R元年8月10日
と ころ ホテルサンプラザ

○シンポジスト

武田 亘明氏 札幌市立大学 准教授 (社会教育主事部会)
大館 弘和氏 岩見沢市役所 (公務員・民間部会 副部会長)

白川 典洋氏 札幌米里小 校長 (札幌支部)
鹿島 幸司氏 千歳末広小 教諭 (石狩支部)
巻 敏弘氏 後志学校支援研究所代表 (後志支部長)

○コーディネーター 小関理事長

■シンポジストから自己紹介とそれぞれの立場で思うこと

(武田氏)

- 同窓会は教員のみで、その他はなく、入ることができなかった。
- 同窓会に入っていたらいいことって何かあるのか。教員なら研修会があり、資質向上の手立てになるが、教員以外ではエネルギーを使って入るメリットがない。
- 大学が変わっているのに、同窓会は変わっていない。同窓会の在り方についてはもっと早くから考えなければならなかったと思う。
- 同窓会の活動内容をもっと広げ、いろいろな職業等の同窓生が入って良かったと思える組織にすることが必要である。
- 入っている人の存在意識があるから同窓会に入っている。

(大館氏)

- 岩見沢市役所にも多くの後輩がいるが、誘いづらい。同窓会に入ること何かいいことがあるのか。青陵の売りは何でしょう。
- 教員になっている後輩の話で、先輩教員に学級経営を教えてくださいな、という話を聞いたことがあります。

(白川氏)

- 札幌支部も道青陵と同じような課題がある。
- 研修会、懇親会への出席を促すこと、会費の徴収に関すること、教員以外の同窓生を入会させることなどに取り組んでいる。
- 同期会の充実にも力を入れている。
- 研修会の持ち方については、一般教員も参加しやすい内容、特に講師の選定を工夫する。
- 名簿について、個人情報のこともあり、必要なのか疑問だ。

(鹿島)

- 同窓というのは、先輩、同期、後輩との人と人とのつながり。
- 同窓ということで、ほっとしたり、安心する。
- 石狩も中堅や若手の参加者が少ないが、参加しない理由は、周りに聴くと
ハードルが高い(管理職ばかり、スーツ)
メリットを感じない(休みなのにお金を払って・・・)
業務が忙しい

(巻氏)

- 教員以外の卒業生をどう育成するか。
- 懇親会でどう生きるのかを話し合う。

〈同窓会の意義やメリットは〉

(武田氏)

- やりがいがあり、役に立っている。教員内では意味がある。
- 異業種交流をすることもいい。
- 地域連携では人の育ちを助ける。
- 研究室ごとに名簿を作る。(在学中から)

(大館氏)

- ・懇親会はとても同窓の絆を深めるのに有効な手立てである。
- ・連絡は、名簿を利用するより、今はメールやラインが便利である。

(白川氏)

- ・同窓会はなくなるものではない。
- ・同窓会は人と人とのつながり、今の立場では恩返しの意味合いが強い。
- ・学閥みたいなものはまだあるようだが、横の広がり、他分校とのつながり、交流もあるというと思う。

(鹿島氏)

- ・会員への連絡は、SNSを使って広報活動を行う。
- ・同窓会へは若い人にどんどん来てもらう方策が必要。
- ・同窓の証みたいなものをつくって配布する。(タオルとか・・・)

(巻氏)

- ・総会で、学生に部の活動の紹介をしてもらい、大学とのつながりを同窓生に意識させる。

〈グループ交流〉

〈2グループ発表〉

—以上—

◎今年度の在り方検討委員会での検討事項

- ・5月の中間報告、研究大会での議論を踏まえ、考えられるいくつかの課題について、具体論で在り方を検討していく必要がある。ただし、本委員会では方向性やいくつかの案を検討することであり、限定的な一つの案に決めてしまうことは避ける。

<課題>

1 退職者の意識改善と賛助会費から会費納入へどのように切り替えるか。

- ・退職者を永久会員とした場合、いつまで会費をもらうか。
- ・今後、入学時前納、卒業時会員という制度を導入した場合との整合性をどうするか。
(例えば) 現在70歳以上の会員については、これまでも会費を納入していることから、今後10年間程度毎年(年2回)会報を送るとした場合を想定し、4,000円程度の一時金で永久会員とすることはできないか。
- ・大学生に入学時に永久会員として会費を集めた場合、今の現役会員からの会費徴収や60定年から69歳までの10年間をどうするかなど、クリアしなければならない課題がある。

〈継続検討材料とする〉

2 現役大学生から会費を徴収する場合、青陵会がどのようなサービスを現役大学生に提供できるかアナウンスする必要がある。

- (例) ① 先輩からの就職アドバイス ② 全国大会には青陵の応援旗をはる ③ 教育活動支援(金) ④ 青陵会の証明書(カード) ⑤ どの業界にどのような先輩がいるかの情報提供と相談窓口の提供 ⑥ 青陵会による必要に応じた大学活動の広報と支援 などなど

3 期別名簿や名簿に自宅住所、電話番号等の個人情報を掲載することと個人情報の保護について

- ・名簿を冊子にして広く配布すると個人情報が流出するので、情報を提供しない人が増える。
- ・各支部役員止めの名簿はどうか。(期別幹事の依頼も必要か)
- ・集めた情報をどの範囲で情報提供するか。
- ・現在作成している名簿については購入者が減少している。(H29:520部、H30:

510部、R1：440部）これ以上減少すると値上げとなる（1冊850円）

4 期別の世話人の発掘と情報連携・共有（お悔やみ、叙勲等）について

- ・現在は顧問、会長、理事長が毎日、新聞のお悔やみ欄でチェックし、該当者がいる場合は当該支部長に弔旗の対応を願っているが、漏れ落ちがある。
- ・生前叙勲については新聞でチェックし、理事長が祝電を送付している。
- ・期別の世話人をどのように発掘するか。
- ・各支部との関係をどうするか。

5 SNSやラインを活用した会員把握の方法は考えられないか。

- ・スマートフォンが普及し、SNSやライン等の通信アプリが発達していることから、このような登録方法は考えられないか。
- ・その場合の手法と課題は何か。

6 青陵会本部のホームページやフェイスブックの活用は考えられないか。

- ・現在、各支部のページを設けているが、開設されている支部が少ない。課題は何か。
- ・今後、活用され行くと思うか。

7 今後、現在ある各支部の教員組織をどのように束ねていくか。

- ・本部には、教職員向けの研修を行う役割は薄れていく。
- ・札幌や石狩、空知の支部が代表を務めていく方法は考えられないか。
- ・その場合、各支部での研修会は維持できるか。

8 今後、一般大学のような同窓会組織にした場合、メリットはあるか。

- ・一般大学ではれば、企業等に先輩がおり、アドバイスや就職に有利である。
- ・現在、本校卒業生で一般企業に就職した者は会員登録されていなかったり、点在しており組織的な対応ができない。
- ・各支部で一般企業に勤めた卒業生をどのように把握するか。
- ・そのほかで、加入するメリットは感じられるか。

9 公務員・民間部会では今年新課程の卒業生を排出してから10年目が過ぎるので、記念のイベントを行い、現存の部会の拡大を図ることはできないか。

- ・本部や各支部は支援し、主役を公務員・民間部会が務める。
- ・会員の把握はつてをたどる。
- ・資金は本部が若干提供する。
- ・宴会の部は会費制でどうか。

10 公務員・民間部会を各支部でも組織できるか。

- ・現存の部会との関係や立場はどうなるか。
- ・会員の把握が難しいが、妙案はあるか。

11 毎年、5月に実施している総会をどうするか。

- ・懇親会にして多くの会員が集う場とすることも案としてはある。
- ・この時期で会員が集まるか。大学とのコラボ（学祭等）、大学教員の出席、二次会を期別の同窓会にするなど工夫も必要か。

12 大学との連携はどうあればよいか。

- これまでは、研究室やゼミがあったが、大学改編により旧課程の研究室は無くなったので、卒業生と教授や学生とのつながりが無くなっている。
- 今後、どのようなつながりが考えられるか。(サークル、部活動など)
- 現在、各部活やOB会でのつながりは無いか。

13 大学入学時に会費を徴収するとなると事実上は保護者が支出することになるので、外部監査など厳正な会計の管理が必要となる。

- 専門家や他の団体から助言を受ける必要があるのではないか。
- 会費の使い道についても何らかの機会に説明する必要があるのではないか。

14 各支部の会員が減ってきたとき、本部から支部への支援はどうあるべきか。

- 金銭的な支援は必要か。
- 卒業先などの情報提供などの支援となるか。(大学側との連携や協議が必要)

15 その他

- 想定される課題があれば・・・。

まとめ

各委員からは、様々な意見が出されましたが、メールやホームページ制作などの専門家から「若い卒業生をターゲットとしたメール配信や本ホームページの掲示板はどうあるべきか、会員の関心を集めるSNSなどの活用方法などについて」お金を払ってもレクチャーを受けてはどうかという意見が出されました。

総会については、イベントにして会員が気楽に集える会にしてはどうか。会場を札幌と岩見沢で年度で交代に開催してはどうか。

現在、札幌では研修会を多く実施しているが教員向けである。他支部との交流や一般会員向けの研修を検討すべきである。

卒業時に大学と連携し、就職が決まっている学生には2月から3月にかけて、新会員加入と加えて、広報に載せる抱負と就職先をたくさん取材して広報で発信してはどうか。

メールアドレスを登録してもらい、一斉メール配信でメールマガジンを月に一度くらい配信し、閲覧した人の中から抽選で岩見沢の特産品が当たるようなシステムはどうか。

大学生には青陵会として奨学金基金を設立し、援助をしてはどうか。

100周年に向け、現在の名簿から期別名簿を作成していく必要がある。札幌支部は期別名簿も作成しているので、情報提供できるかもしれない。

ホームページには問い合わせ先や各支部の連絡先などを載せる必要がある。

ホームページに大学生の個展やコンサート情報を掲載できるとよい。また、情報は大学や学生が直接書き込める方が運営上は楽ではないか。

事務局でこれらの意見を整理し、次回の前に各委員とメールで意見交換しながらまとめ、11月には第5回の会義を開催する。